



みどり



157号 『入院中の生活について』

2021年4月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

はじめに

当院には、一般、医療療養、回復期リハビリテーション、介護療養の4つの病棟があります。それぞれに決められた役割があり、患者さんの状態によって、入院する病棟が決まります。病棟ごとに、専属の看護師や介護士、リハビリ担当者がおり、栄養士やケースワーカーとも協力しながら、チームを組んで、患者さんの入院生活の支援を行っています。

今回は、一般病棟に入院した際の生活の流れについて、お話させていただきます。

入院決定～実際に入院するまで

入院には、2通りの流れがあります。

ひとつは、自宅などで体調を崩し、当院の外来を受診して、そこで医師から必要と判断されて入院するケース。もうひとつは、他の病院での治療が終了したものの、自宅などに帰るまでの間に、もう少し療養やリハビリが必要で、転院してこられるケースです。どちらのケースも、当院の外来で、医師が必要と判断した検査を行ってから、一般病棟に入院します。入院する部屋については、個室か大部屋かなども含め、医師の判断で決定します。

入院日の流れ

入院したら、病棟の看護師が、ご本人の体温や血圧等を測定し、身体の状態を観察します。また、ご本人やご家族に、現在までの様子や生活歴の聞き取りを行ったり、入院時に必要な書類や物品の説明を行います。その後、ご本人の病状に応じて、点滴や追加の検査が行われます。

入院日はご本人が緊張したり、疲れていることが多いので、なるべく静かに、安全に療養を開始できるよう、看護師や介護士が、見守りや声かけ、必要な生活援助を行います。

入院翌日からの、一日の流れ

病棟でのおおまかな一日の流れを、時系列でご紹介します。基本的には全患者さんにこの流れが適応されますが、患者さんの状態に応じて、変わることもあります。また、ナースコールの対応や排泄介助、オムツ交換などは、適宜行っています。

6:00 起床。廊下や居室の電気が点灯します。温タオルでお顔を拭きます。

7:00 頃 朝の検温。体温や血圧等を測定し、体調をおたずねします。

8:00 朝食。一般病棟の患者さんは、各居室で召し上がっていただきます。食後は毎回、歯磨き、うがいを行います。

9:00～ 陰部を清潔に保つため、毎日洗浄を行います。週1～2回、患者さんの体調に合わせて、身体を拭いたり、シャワー浴をします。

10:00～ 検温や体調の観察を行い、必要があれば、医師に診察してもらいます。医師から指示がある場合は、検査や点滴、リハビリを行います。

12:00 昼食。食べ物を飲み込みにくい患者さんには、言語聴覚士がお手伝いしながら、適した形態の食事を食べさせてくれることが多いです。

13:00～ 午前中と同様に、患者さんの状態に応じて、身体の保清やリハビリ、検温、医師の診察、検査、点滴等が行われます。

18:00 夕食。

19:00～ 検温や体調の観察を行います。夜間でも、必要時は医師が診察をしてくれます。

21:00 消灯。廊下や各居室の電気が消えます。ここから朝までは、看護師が、適宜見回りや寝返りのお手伝い、排泄の介助等を行います。

大きな病院のように、決まった時間に医師が何名もで診察に来る、「回診」というものは、あまりありません。しかし、週に数回は、医師が個別に診察にうかがいますし、必要時には、すぐ対応してもらえる体制になっています。

当院の先生方は、皆さんとても優しいです。

体調が落ち着いてきたら

療養やリハビリの目標が達成されてきたら、退院の準備が始まります。

ご本人やご家族が、今後どのような生活を送りたいと考えているかを聞かせていただき、可能な限り希望に沿った生活ができるよう、ケースワーカーが、適した退院先のご提案をします。病棟の看護師は、患者さんが退院後も滞りなく生活できるよう、関係各所（担当のケアマネジャーや、地域包括支援センターなど）への連絡、報告を行います。

終わりに

今回は、一般病棟での入院生活についてお話ししました。他の病棟では、定期的にレクリエーションを行ったり、食堂で食事を摂ったり、リハビリを多く行うなど、一般病棟とは違う点も多くあります。

ご自身やご家族が入院された際、生活上の不明点などがあれば、その病棟のスタッフに、お気軽にお尋ねください。

(文責：松永 久美子)